

平成 29 年 9 月 7 日

国際航空専門学校
校長 猪掛 隆 殿

学校関係者評価委員会報告

学校関係者評価委員会
委員長 山下 奉利

平成 29 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

委員長	山下 奉利	学校法人浅野学園 国際航空専門学校 監事
委員	中満 悦郎	公益社団法人日本航空技術協会 事務局長
委員	福田 和磨	株式会社 JAL エンジニアリング 総務部 統括マネージャー
委員	奥西 武志	全日本空輸株式会社 整備センター業務推進部 担当部長
委員	蟹江 興太郎	株式会社 JAL グラントサービス 総務部 人事教育グループ長
委員	小澤 洋	朝日航洋株式会社 航空事業本部 川越メンテナンスセンター長
委員	山崎 一慶	多摩川エアロシステムズ株式会社 整備部 副部長（欠席）

2 事務局

猪掛 隆	校長
後澤 進次	管理本部長
山田 知良	教務部長
岩田 高廣	教務部 次長
池上 和則	エアポート科 学科長
阿部 芳恵	管理本部（書記）

3 学校関係者評価委員会開催日

平成 29 年 9 月 1 日（金）12：00～14：00

会場：空港施設第一総合ビル 公益社団法人日本航空技術協会 会議室

4 平成 29 年度学校関係者評価委員会評価結果

平成 28 年度の自己評価は妥当と判断する。尚、詳細は別紙のとおり。

別紙

1 学校運営方針、重点施策、就職状況について

校長説明。

① 学校運営方針

平成 22 年度から掲げており、現状はこのとおり進めている。

② 平成 29 年度重点施策 4 項目について

- ・技能審査は毎年 1～2 名の不合格者が出るが、今年度こそは 100%を目指す。
- ・学生に対し社会人としての常識を伝統としてしっかりと準備していく。
- ・学生募集は二年連続で前年割れしている。原因として、少子化や高等学校の就職率増加、保護者の大学志向等、専門学校は苦しい立場であるが 160 名を目標にしている。
- ・働き方改革により効率よく業務を行い、全員 17:00 の下校を目指す。

③ 平成 29 年度就職状況について

現在 134 名中 131 名内定をいただき、残り 3 名は受験中である。大手航空会社、グランドハットリングの求人が大幅に増え、LCC 等航空会社の期待に添えていない状態になっている。学生募集で必要な学生数を確保し、企業の期待に応えたい。

委員会として了承。

2 平成 29 年度教育計画について

教務部次長説明。

昨年度からの変更点

- ・溶接講習は廃止し、1 年生の基礎学力教育に時間を振り分けた。科目細目としては『技術一般』44 時数（22 回）4 月から 2 学期にかけて行っている。
- ・危険物講習は 3 学期から 8 月下旬に変更。
- ・TOEIC を年度に決め実施。（5 月、10 月、1 月）

委員会として了承。

3 平成 28 年度自己評価結果について

基準 1 教育理念・目標

コース改変として、平成 30 年度入学生から基本Ⅱを 2 年間で、3 年生では大型共通項目教育を行うコースを準備している。

昨年度から評価が 3 から 4 に変更した項目は 5 か年計画に沿って改定。

教官室 PC を全員に貸与、E カレッジをバージョンアップ、エアポート科の機材追加等
各項目とも評価レベルは妥当と判断する。

基準 2 学校運営

- ② 人事考課制度の基準は無かったが、現在は既に作成し運用している。
- ② セキュリティ管理として、教職員にノートパソコンを貸与。ネットワークで情報を共有し、持ち帰りが無いように処理をしている。
システムのメンテナンスとして、大型印刷機を導入し、効率化を図った。
中期計画に沿って E カレッジの問題点を外部業者と取り上げ、新システムに速やかに移行できるように進めている。

各項目とも評価レベルは妥当と判断する。

基準 3 教育活動

- ① 授業評価について、学生アンケートを 9 月中に実施予定である。
- ② 教官の平均年齢が高いが、若い職員が 1 名入職しており、今後は 3 名程入れてプロパーを育てていく。

各項目とも評価レベルは妥当と判断する。

基準 4 学修成果

各項目とも評価レベルは妥当と判断する。

基準 5 学生支援

- ① 学生相談に於いて、現在はプライバシーを守れる部屋は無いが、将来的には必ず作る予定である。
- ② 保護者会を開催し、成績・就学態度等を開示している。以前は分科の際には問題が起こったが、現在は納得して頂いている。

各項目とも評価レベルは妥当と判断する。

基準 6 教育環境

安全管理として、校長室と教官室は転倒防止対策を行っていなかったが不用品の整理をし、殆どの個所で終了している。
各項目とも評価レベルは妥当と判断する。

基準 7 学生の受け入れ募集

学生募集は160名を目指して対策を実施している。昨年度からは説明会を2回増やし、地方説明会を街中のホテルから飛行場の施設に変更した。試運転体験会を固定翼・回転翼共に2回ずつ夏休みの平日に実施。しかし、余り参加者が居なかった。教職員の高校訪問は約400校実施。来年、再来年に向けて期待している。

各項目とも評価レベルは妥当と判断する。

基準8 財務

各項目とも評価レベルは妥当と判断する。

基準9 法令の遵守

- ①学校規則は見直し、新学則で実施中。
- ②職員のコンプライアンス教育を実施した。今後も継続して行う。

各項目とも評価レベルは妥当と判断する。

基準10 社会貢献・地域貢献

- ①産・学・行政・地域等との関連に関する方針・規定の整備は、県の規定は達成した。
- ②ボランティア活動は学校として積極的に奨励し、年間計画ではHRの時間を利用して2ヶ月に1度の頻度で駅から学校までの道路のゴミ拾いを行っている。

各項目とも評価レベルは妥当と判断する。

4 各評価項目について、評価委員による審議

山下委員長：ボランティア活動はどこか実績がカウントされるのか。

学 校：実績がカウントされるというものでは無い。市のHPに掲載及びポスターボードの認定を受けたことにより看板が道路に設置された。社会人教育の一環である。

中満委員：自己評価の公開方法はどのように行っているか。

学 校：学校HPに公開。内容は文部科学省に沿って行っている。

中満委員：先生方もHPをみてポストを共用できているのか。

もしそうであれば、全体をもう少し把握し易く工夫を行っても良いのではないかと感じた。具体的には取組みの優先順位や事の大小が分れば全体共有に繋がるのでは。

- 学 校 : 共有はされにくいが中期計画に盛り込み、全体をオープンにして次の方向性を知らせているので大筋では理解してもらっている。
- 福田委員 : 入学人数が定員割れしているが、過去の入学者は何名か。
- 学 校 : 3年前は170名の入学者がいた。ここ二年共に前年度割れしている。
- 福田委員 : 宣伝方法はどうだったのか。
- 学 校 : 以前は業者による宣伝を行っていた。現在は教職員一同で取り組んでいる。
- 福田委員 : 新人に対するセハラ・パワハラ等のコンプライアンス意識を向上させるために、学校と連携しながら高めていきたいと思っている。
- 蟹江委員 : 躰の部分を学校と連携して行っていきたい。
募集活動では中学生にまで対象にしているのか。
- 学 校 : 地元中学生の職場見学や、修学旅行で学校見学にみえるので積極的に受け入れている。
- 蟹江委員 : 小さい頃からが将来に繋がる。連携して行っていきたい。
- 山下委員長 : 体験搭乗や説明会に参加した人の見込みは。
- 学 校 : 体験搭乗は土日に行えないので、学生の参加のし易い期間（春休み・夏休み等）に実施。また、地元の方とのコミュニケーションの一環として体験搭乗も実施している。説明会は本人よりも保護者の方に興味があるように思える。更にJAL・ANA工場見学も行っており、これはあっという間に満員になる。確実に来て頂けるように効果的に活動していく。

5 評価対象期間

自 : 平成28年4月1日

至 : 平成29年3月31日

6 実施方法、公表

学校関係者評価の実施にあたっては、学校関係者評価委員の皆様にご覧いただき「平成28年度自己評価報告書」の結果について事務局より説明し、評価結果に対する意見をいただいた。いただいた意見は、本報告書として取りまとめ、今後の教育活動や学校運営の改善に活かし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等で公表する。

以上